

参考資料：岡山縣上道郡古都村史、現代古都の郷、ふるさと古都
岡山史蹟めぐり（岡山市立西大寺公民館古都分館）、岡山市の地名

やぶこふんぐん 矢津古墳群

口矢津に 2 個、奥矢津に 10 数個ある。ほとんど横穴式古墳で山腹か山麓にあって、規模が小さく石室の石も近くから集めたもののようで共同墓地的なものと考えられる。

永山卯三郎氏（明治～昭和期の郷土史家）が名付けた、潮見塚（第十三・十四・十五号墳の 3 個がある）の中からは多くの陶棺の破片や須恵器の小片が発見された。

これらは恐らく 6・7 世紀頃作られたものであり、古墳としては、後期に属するものといえる。

例外として十二号墳だけは矢津の後方にそびえる山上にあって、ここからは岡山平野を眺望することができる。

調査の結果竪穴式石室の存在が確かめられており、古墳時代前期の円墳として将来くわしい調査が期待される。

すえき 須恵器

青味をおびた灰色硬質の土器で祝部土器ともいい、形は多種多様である。

古墳の副葬品として石室内から発見される。

矢津古墳群のいくつかに見られた。

須恵器は副葬品として以外に食べ物を盛ったり貯蔵したり日常生活に広く使用され、その時期は古墳時代から奈良時代まで及んだという。

この土器が弥生式土器より進んでいるのは、ろくろを使って形を整えていること。

千度近い高熱で焼かれていることで土器としてはるかに優れている。